

## 2017年 剣道オーストリアの旅

湯村正仁 記

### はじめに

昨年まで9月であったこの秋の旅を10月としたのは、9月は彼の地が新学期を迎える多忙な時期であり合宿の参加者が年々減少したことを反省したためである。この変更は正解であった。グラーツの合宿参加人数は70名を超え盛会であった。この時期の東欧の気候を心配したが秋の紅葉(黄葉?)真ただ中、日本の11月中旬程度で剣道には最適である。

この春と秋の年2度の遠征、年々規模が拡大の傾向にある。経済的に貧しい東欧の国々にとってラトヴィアあるいはオーストリアまで遠征することは大変な負担らしい。そこでこちらが行き先を拡げて訪問することになったようだ。今回はクロアチアという国が加わった。

### 10月13日

関空発 ヘルシンキ経由 プラハ18:45着

チェコ剣道連盟 インドラ会長の出迎えを受ける。氏とは昨年来旧知の仲。

ホテルは Corinthia Hotel Pragh、35階の高層ホテル 2階レストランにて夕食。Pilzenに因んだピルツナービールがおいしい。

部屋は19階、沼田先生と同室。ダブルベッドであり、部屋の変更を申し込む。

ビール2ジョッキでダウン。

### 10月14日

8時半ホテル発 学校の体育館

参加者50人 半数は有段者 6段2名、5段1名 野口範士の指導、半数の級は井上教師の指導に託す。午前、午後2回の指導。昼休憩には沼田先生の剣道セミナー。回を重ねるごとに内容が濃くなってきた。昼食：サンドイッチ+果物

プラハ城の一角にある別会場では竹前先生の書道展が開かれている。

関空で出会った合気道5段のチェコ人 Krondak氏途中から合流し終日同行する。

終了後、インドラ会長の自宅、建築中の道場へ。1年経つがまだ完成していない。時間観念が違うようだ。

市内に戻り夕食。豚肉料理

### 10月15日

会長の案内で電車に乗りプラハ城へ。昨年しっかり見ているが更に新しく見える。

昼食はバスの中でサンド、果物、デザート。

バスで Plzen へ。高速で 80 km 西。プラハのビールはここで作っているとのこと。透明な琥珀色のビールピルツナービールの発祥の地。

午後 3 時ホテル着。Marriott Hotel

小さな町。見学 教会前の広場ステージでバイキング風のグループが歌っている。小さな市場。

午後 6 時徒歩でビール工場のビアホールへ。札幌のビアホールを思い出す。

### 10月16日

朝 9 時発 約 100 キロ西、チェコとドイツの国境近くの忘れ去られた町チェスキークロムロフへ。今回の観光の目玉。故は蛇行した川の中の湿地であったところに町ができ、お城が町とり巻く周りの山地にある、方向感覚がおかしくなりそう。観光客が多い。

昼食は最高の場所。川の傍のレストラン。黒猫が愛嬌。昼食後自由行動、お城に登ると先には広大な庭園が広がっていた。お城の塔からの眺めは格別。余り知られていない観光地であるが、中世の名残をとどめ、突然鎧姿の騎士が出てきそう。

### 10月17日

移動日。9時30分ホテル発ザルツブルグ経由ウイーンへ。5時間。

ホテルはウイーン大学の近くのいつものホテル、Boltzmann Hotel。

電車に乗りウイーンの森へ。初めてウイーンへ来たとき（50年前）はこの森は林の中に納屋があり、そこが酒場であって、来ていた若者たちと肩を組みあつて訳の分からない歌を歌って騒いだのだが、その時のボジョーレはうまかった。今ではまるで町の中である。中庭のようなレストランで夕食。

### 10月18日

1日乗車券を利用し、シェーンブルン城へ外1周。

次いで以前行った市場へ、魚料理が目的。日本のテレビでも紹介されていたためか以前と違って上品な魚料理であった。帰路徒歩。

ホテルで一睡の後、午後4時30分発、バスで40分離れた体育館へ。ウイーンでも剣道の会場確保に苦労するらしい。音と声にクレームがあると。今回も相当離れた場所であった。稽古8時終了、次の使用者が待っていた。

近くのレストランで夕食、大量のとんかつに参った。

### 10月19日

7:30ホテル発ウイーン空港へ。クロアチア航空にてザグレブへ1時間。ボンバルディア双発のプロペラ機。ザグレブ空港は最新の空港。クロアチア剣道連盟事務局長 Mr. Tomislav Pandric と日本人女性剣士3段の出迎えを受ける。

私たち剣道の旅では初の訪問国である。この国の剣道の実情をまとめておく。

氏は剣道六段、世界大会では大将をつとめていた。北本の外国剣士養成講習も受けている。実質上のクロアチア剣道の指導者である。日本人女性は剣道を16年ぶりにこちらに来て再開したとのこと。途中バスで通ったパン屋が勤務先であった。この国は決まった日本の剣道家の指導は受けていないとのこと。アドリア海を渡ればイタリアであり剣道の環境は悪くなさそう。剣道連盟の所属は300人が登録されているが現在実質150人が活動しているとのこと。東京開催の世界大会1回戦をUチューブで見ると、イングランドと対戦したがなかなかいい試合をしていた。

バスでホテルへ。PANORAMA Hotel、30階建ての高層ホテルで内装も豪華である。この日、柔道の世界大会がこの地で開かれており、選手の宿舎となっていた。

この日、まだ時間も早いので事務局長の案内で市内観光。内戦による破壊からの復興途中と感じた。

午後5時、バスで約40分近郊の旧別荘地 Samobor 学校の体育館へ。田園風景には東欧文化に少し地中海の風を感じる。日本と似たものがあり違和感がない。剣道会場には約50人が参加。相当遠方からも来ている。剣道の形は比較的きれいにできている。しかし、着装、紐の結び方、礼法、市内の扱い方など基本的なことができていないと感じた。

終了後、近くのレストランで交換会。この日、小生下痢。意識が薄れ閉店したレストランのトイレに取り残された。

## 10月20日

この日も快晴。午前中昨日に続いて市内観光。至る所にマーケットがあり花がきれい。この国はユーロが全く通用しない。日本の観光客は見かけない。昼食はバスの中でとりながら、グラーツへ移動。国境付近はまだ高速道路が完成していない。午後5時グラーツのホテルUFAに到着。この日のけいこ時間は午後6時までで、急いで着かえても30分の時間がやっとであった。

## 10月21日、22日

メインの合宿講習。参加者 70名と多い。

天候は雨。少し肌寒い。

朝稽古 6:30~7:30

午前 9:30~12:00

午後 21日15:00~18:00、22日14:00~16:00

昼休憩中 竹前先生による書道の指導ならびに書道展鑑賞

今回の指導の主眼を「基本技から応用技への展開」とし、参加いただいた会員の皆さんに

もこの線での指導をお願いした。このテーマを選んだのはグラーツの指導者の一人から「ヨーロッパの大会では応じ技は必要ない」との意見をいただき、それに対する回答をあたえるためであった。

全日本東西対抗剣道大会の DVD を見せ、仕掛け技による有効打突が 41.5%であるのに対し、応じ技によるそれが 52.8%である。さらに、日本剣道形は全て応じ技による「決め」が基本である。世界大会・ヨーロッパ選手権などの審判内容がしかけ技に判定の傾きがあることは承知しているがその点を改善し高い能力を持った指導者の養成こそが望まれるところである。

これまでのラトヴィア・オーストリアの剣道を見てきて、基本動作の中で打ち方の指導なされても受け方の指導はされていない、打突後その先まで走り抜けなければならないとの考えがあるようだ。連続打ちができないことにその原因があるように思う。

したがって、実際の指導で基本技のありかた、連続打ちの稽古法を体験させ、剣道形ではその理合いを理解させ、残身が必要な理由を理解させることに重点を置いた。

C 組＝井上一夫教士指導（キッズおよび基本不十分なアダルト）、

B 組＝野口慎一郎範士指導、（二段以下のアダルト）

A 組＝湯村正仁範士指導（三～六段）

に分けて指導した。井上、野口組の指導については各氏から報告をお願いしている。各氏はすでに当地の事情をよく承知で指導原稿を作成の上参加していた。

### A 組の指導内容

三段以上 13 名は各地における指導者である。指導法の主眼を、①剣道形の理合いと竹刀剣道への展開、②攻めあいから構えの崩し、体当たり、③防御方法からそこに生まれる隙への攻撃、④応じ技への展開法とした。

- 1 切り返しに {打ち 10 徳、受け 10 徳} という言葉があり、受けも打ちと同じように重要である。
- 2 受けと攻め手を決めた追い込み稽古 受けると必ず構えの隙ができ、そこが弱点になることを実際の連続追い込み稽古において指導した。
- 3 切り返しから体当たりによる崩し、更に追い込んでの決め、反撃に対する応じ技
- 4 発声法の指導 受講生の多くが持つ手の内の硬さ、踏込の弱さの改善。
- 5 追い込み稽古 連続打ちによる「万歳剣道」の改善
- 6 剣道形 刃筋、鎬、反りを利用した応じ技の原理 竹刀剣道への応用

実際の指導は 2 日である。もう 1 日あれば更に深めることができそうであった。

しかし朝稽古から始まる 1 日 3 回の稽古と午前午後各 3 時間の指導は体力的には精一杯で

あった。日本の会員2名がダウンするほどであった。

新しくヨーロッパ剣道連盟会長に就任された **Hauk** 氏が受講者であり理合いの指導にはことさら重点を置いた。**Hauk** 氏にはお祝いとして持参した和風スーツをお送りした。今後ご活躍と我々の活動に対するご支援を期待する。

### 10月23日

バスでウィーンへ。途中寄り道、1時間近く田舎道を走り、**Millzell** へ。天気が良ければアルプスの東端の素晴らしい景色が楽しめたと思う。生憎雨雲が低く垂れこめ、まるで雲の中に行くがごとし。

この街にはきれいな教会とお菓子工場がある。気温は4度。曇交じりの雨にふるえあがった。お菓子工場の見学、昼食もそこそこにバスに逃げ込む。一路ウィーンのホテルへ。

### 10月24日

9:00ホテル発。ウィーン空港へ。

11:15発 ヘルシンキ経由関空 25日8時55分無事帰国。今回の使用機はエアース。エコノミー座席が広く足を伸ばして寝ることができ、ずいぶん楽でした。

### 終わりに

これまで発展的に対象国の拡大のため、3か国を回って稽古を積み重ねたうえで合宿に臨んでいた。この遠征の日程・費用の捻出には多大の努力を要する。私自身の年齢に対してもすでに限界を感じるようになった。今後、日数の削減・参加者の若返り・費用の削減等対策が必要と感じる。

今回の遠征もいつもお世話いただいている前野氏におんぶにだっこの遠征であり、深く感



謝

申し上げる。

